

**5月** **キャンパス間のテレビ会議システム運用開始**

情報メディアセンターでは、工学部情報処理センターと協力して、横浜キャンパスと世田谷キャンパス間のテレビ会議システムの運用を開始しました。異なるキャンパスの人同士が打ち合わせを行う場合に、キャンパスの移動に少なくとも30分以上かかり、日程調整も難しいという問題がありました。今回のシステム運用により既存のインターネット回線を介したテレビ会議を開催できるようになり、キャンパス内にいながら異なるキャンパスとの間で打ち合わせが可能になりました。お互いの映像および音声はリアルタイムで安定して送受され、2005年度は、広報委員会および図書館関係会議等の全体で5~20名の会議で定常的に活用されました。また、本システムは会議に必要な打ち合わせ資料を別途PCの画面に表示することで、相手側に高品質に資料提示する機能も持っています。



世田谷キャンパスとのテレビ会議のようす

**7月** **学部Webサイトの全面リニューアル**

環境情報学部では、受験生や地域の方に本学部をより理解して頂く等広報強化の一環として、学部のWebサイトの全面リニューアルを実施しました。今回は、特にWebページの読者の視点にたって、情報のありかがわかりやすく、内容に関心がもてかつ読みやすくなるよう配慮しました。具体的には、受験生や住民の立場に近い本学の学生有志からなるプロジェクトを結成し、主体的に企画・制作に参画してもらいました。また、同時期に大学全体のWebサイトの全面リニューアルも実施され、その中の本学部のWebページの制作にも学部として協力しました。その後、英語のWebページも制作し、中国語のWebページも提供していく予定です。



◀ 全面リニューアルした大学全体のWebサイト内の環境情報学部のページ



◀ 全面リニューアルした環境情報学部のWebサイト

**7月** **ETソフトウェアデザインロボットコンテストにおいてモデル部門審査特別賞を受賞**

2005年7月2日~3日に開催されたETソフトウェアデザインロボットコンテスト (ETロボコン) において、環境情報学部情報メディア学科小倉信彦研究室の学生の参加する大学合同チーム (チーム名 Seventeen Hearts) が、モデル部門審査員特別賞 (53チーム中4位) を受賞し、同チャンピオンシップ大会へ進出しました。ETロボコンは国内で数少ないソフトウェア開発のロボットコンテストであり、複雑化する組み込みソフトウェア開発において、モデリングに基づく、ソフトウェア分析・設計手法の適用を進めるための実践的な教育を目的としています。社会人参加の多い本大会において、本大会の前身のUMLロボコンを含め、史上初の大学チームの受賞を果たしました。(ET: Embedded Technology Software=組み込みソフトウェア)

競技前に意気込みを語るチームメンバ



◀ 疾走するライトレースロボット

9月 会津大学短期大学部との遠隔授業開始

環境情報学部では2005年後期授業より会津大学短期大学部へ合計13週に渡り、遠隔授業配信を実施しました。国内他大学への正規授業の配信は、本学部にとっても初の試みとなりました。この遠隔授業では、毎週情報メディアセンター2階の映像メディアルームからインターネットを介して後藤正幸助教授による授業を配信し、学習管理システム（LMS）を駆使した授業の進捗管理と会津大で受講している40名の受講生とのコミュニケーションを図りました。授業映像は、バーチャルスタジオシステムを駆使することで、教員映像と3D画像を組み合わせたテレビの教育番組さながらの映像をリアルタイム合成し、同時に遠隔会議システムにより、受講生の様子も受信するという双方向通信の形で実現しました。受講生へのアンケート結果からも、この遠隔授業は興味を持って取り組めたなどの良好な評価が得られました。



教員と3D画像を組み合わせた画面

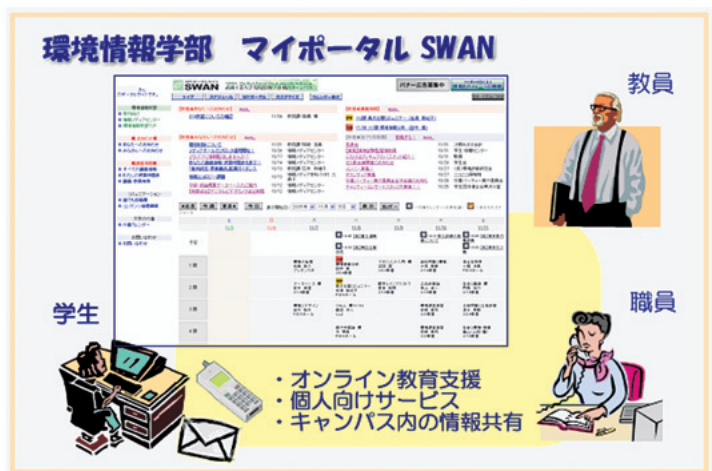
会津大学短期大学部のようす

映像メディアルームでの教員映像の撮影のようす

9月 環境情報学部ポータルサイトリニューアル

1999年に、環境情報学部の第一期生によって構築され、その後も学生プロジェクト中心に運用されてきたポータルサイトSWANが、2005年9月に個人向けにカスタマイズされた「マイポータルSWAN」としてリニューアルしました。

マイポータルSWANは、学内の様々なデータベースと連携できるだけでなく、個人用にカスタマイズすることが可能です。後述する学習管理システム（LMS）との連携も可能です。これにより、個人向けの講義情報や、大学からのお知らせなどの情報が即座に手にはいるようになりました。学外（自宅・携帯電話）からでもマイポータルにログインすることで、個人向けの講義情報や、大学からのお知らせなどを確認することが出来ます。また登録されたお知らせや講義情報は、自動的にメール配信されるため、マイポータルを見なくとも情報を逃すことはありません。情報の閲覧だけでなく「誰でも投稿欄」では、教職員からだけでなく、学生からの情報発信も可能です。自分宛の情報を的確に得ることや、キャンパス内の情報共有の場として活用されています。



環境情報学部 マイポータルSWANの画面（中央）

## 9月 e-Learning学習管理システム (LMS) 導入準備開始

環境情報学部では2006年4月からe-Learning学習管理システムを正式に導入すべく準備を進めています。具体的には、タスクグループを編成し、講義パターン別にどのように活用すると高い教育効果が得られるのかの検討が始まりました。対象とする講義には、PCを利用する講義、利用しない講義、フィールドワークなどの調査系講義など、さまざまな形態が考えられ、それぞれにe-Learning用教材（コンテンツ）の作成を進めています。教員は授業の前に事前資料配布を行ったり、また学習度チェックテストなどで学生の理解度を把握し、授業ペースを調節することが出来るので、学生にとっても効果的な学習ができると期待されます。正式運用がはじまると、マイポータルの「時間割表」から学習管理システムへ、ワンクリックでアクセス可能となります。



授業支援システムの導入により、予習や復習、レポートの提出なども自宅で行うことができるようになります。

## 10月 高齢者向けパソコン教室の実施

環境情報学部初の試みとして2005年秋に計7回にわたり、地域の高齢者を対象としたパソコン教室を開催しました。本教室は、環境情報学部の後藤正幸研究室と中村雅子研究室を中心に多くの学生ボランティアが集い、東山田地域ケアプラザや地域ボランティアの方々と協力し半年以上の準備期間を経て、手作りで作上げてきた教室です。高齢者にも分かり易く、「コミュニケーションを楽しめる教室」をテーマに、情報環境豊かな本学横浜キャンパスで開催するメリットを活かした構成としています。テキスト作成から授業内容の構成、教室のマネジメントまでを全て学生主体で実施されました。携わった学生チームはお互いに協力し合い、普段では得られない貴重な経験をしました。参加した受講生である高齢者の方々からも、感謝と感激の声をたくさん聞くことができ、好評のうちに終了しました。



学生講師の熱心な説明を真剣に聞く受講者の方々

## 11月 中国・武漢大学と国際ワークショップを開催

2005年11月17日-18日の2日間に渡って、武蔵工業大学と武漢大学の共催により国際ワークショップ「International Workshop on Sustainable Asia 2005 - Sustainable Urban Development-」が本学横浜キャンパスのFEISホールにて開催されました。本ワークショップには、武漢大学を含む海外の4つの大学から計19名（そのうち大学院生3名）、東京大学を含む国内の他大学・研究機関などから11名、学内教職員および学生など80名、その他を含めると100名以上の方々の参加がありました。本ワークショップでは、26編の技術論文が発表され、そのうち9編（本学5編、東京大学1編、武漢大学2編、香港浸会大学1編）が学生フォーラムにて大学院生により発表されました。

今回の国際ワークショップの共催は、2004年に始まった武漢大学との遠隔授業の延長線に沿った企画で、教員だけではなく多くの学生も参加したことが特徴です。2006年11月に、引き続き武漢大学にて行われることが決まっており、本学から多くの教職員・学生が参加する予定です。



会場（FEISホール）のようす

発表後、参加者との活発な質疑応答が行われました

## 11月 武蔵工業大学の系列附属高校との高大連携ワークショップを開催

2005年11月26日(土)、東横学園高等学校において、環境情報学部情報メディア学科の小池研究室が取り組んでいる「教育環境のデザイン」の一環として、高大連携ワークショップ、「Squeak Workshop2005」が開催されました。当日は、小池星多助教授をはじめ研究室の学生が中心となって、本学系列の東横学園高等学校、東横学園大倉山高等学校、武蔵工大附属高等学校の生徒も多数参加し、アラン・ケイの開発したSqueakというフリーソフトを使用、Squeakの専門家の外部講師を招いてコンピュータを使用した(プログラムによって動くアニメーション)作品を作りました。このような高大連携ワークショップを行うことで、系列高校と新たなネットワークを築くことができました。



プログラムによって動くアニメーション作品を作る系列附属高校の学生たち

## 12月 環境教育用ソフトを企業と共同開発

環境情報学部環境情報学科の中原秀樹研究室では毎年事例研究の授業の一環として企業・行政機関・NGOと共同研究を実施しています。2005年度富士通株式会社との共同研究において京都議定書が発効した年にふさわしいテーマとして考えたのが、日常生活で個人が排出するCO<sub>2</sub>を簡単に把握できるソフト開発です。環境と健康に配慮したライフスタイル「LOHAS」というマーケティング・コンセプトを応用し、日常行動のシミュレーションを行って、個人の環境貢献度を確認することができます。自覚しにくいライフスタイルと環境影響をゲームキャラクターで可視化することによって、CO<sub>2</sub>削減の実践につなげるきっかけを作るのが狙いです。開発したゲームを12月15-17日東京ビックサイトで開催されたエコプロダクツ展(入場者数約15万人)で使ってもらい好評を博しました。省エネルギーセンターからも現在引き合いが来ています。本研究は「環境」と「情報」のコラボレーションであり、「環境情報学とは何か」を具体的に説明する好例といえます。



「LOHASのCO<sub>2</sub> (コツ)」という環境教育用ソフトにより日常生活の行動から一日のCO<sub>2</sub>の排出量をゲーム感覚で簡単に計算することができます。

## 12月 サイバーキャンパス整備事業、順調に成果創出

環境情報学部では、2003年度～2005年度、文部科学省が支援するインターネット等を活用した海外大学等との教育研究交流を目的とする「サイバーキャンパス整備事業」を推進してきました。具体的には、最先端のマルチメディア装置や学内ネットワークを拡充し、①オーストラリア熱帯雨林復元フィールド教育プログラムの共同開発と運用、②持続可能な発展のための環境教育モジュールのカトマンズ大学等との共同開発と運用、③武漢大学との日中横断空間情報の共同構築および応用研究等を展開し、国内外の大学との遠隔講義や環境教育用教材をWebサイトで世界に向け情報発信するなど順調に成果を創出しています。

環境教育プログラムを行った現地小学生(ネパール)



▲ステレオカメラによる植林樹木の生態調査(オーストラリア)



▲ミニプレラボにて、武漢大学との遠隔授業の様子(中国)